

かいほジャーナル



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

2015 SPRING

Vol. 62

門司海上保安部 / 下関海上保安署

強潮流の難所、 関門海峡の安全を守る



Contents

Vol.
62

かいほジャーナル 2015 SPRING

PHOTO GRAVURE

- 1 当庁初!同一航空基地に3人の女性パイロット
- 1 横浜機動防除基地 人事院総裁賞を受賞
- 2 年末年始特別警戒及び安全指導
- 2 海上保安庁音楽隊@東北~with 多賀城高校吹奏楽部~
- 3 海氷情報センター 開所
- 3 1月18日は「118番の日」です

特集

- 4 門司海上保安部、下関海上保安署

強潮流の難所、 関門海峡の安全を守る

TOPICS

- 10 門司港・下関エトセトラ
~特集では伝え切れなかった門司港、下関をここで~

NEWS FLASH

裏表紙

INFORMATION

大切な命!自分で守る~海上保安庁からのお願い
海上保安大学校・海上保安学校採用試験



表紙



関門海峡と「うみまる」



宮本武蔵に扮した「うみまる」と
佐々木小次郎に扮した「うーみん」



当庁初！同一航空基地に 3人の女性パイロット

平成26年12月1日付と3日付で、福岡航空基地に新しく中田葵(写真左)飛行員と渡邊莉子(写真右)飛行員の女性飛行員2名が、それぞれ海上自衛隊操縦委託研修と、宮城分校回転翼基礎課程を無事修業し、晴れて新人パイロットとして赴任してきました。

新人パイロットの2名はずっと夢見てきたパイロットとしての実務に就く事となります。

また、福岡航空基地には、既に堀田美保子飛行士(写真中央)が同基地唯一の女性機長として勤務しており、女性パイロットが3名勤務する航空基地は当庁では全国で初めてのこととなります。



横浜機動防除基地 人事院総裁賞を受賞

平成26年12月10日(水)、横浜機動防除基地は、平成26年度人事院総裁賞(環境部門)を受賞しました。

発足後20年の節目を迎える中、これまでの326件の油の流出事故等に出動し、機動防除隊員として培った知識および技術を元に国の立場

から指導、助言および調整を行う専門家としての役割を着実に果たしてきたことが評価されたものです。

明治記念館(東京都港区元赤坂)にて行われた授与式では宮本伸二基地長が代表者として出席し、その後、天皇皇后両陛下の御接近を賜りました。



年末年始特別警戒及び安全指導



海上保安庁では平成26年12月10日から平成27年1月10日までの間、年末年始特別警戒及び安全指導を実施しました。

年末年始は帰省、観光などで海上輸送が増加するため、安全確保を目的として、旅客船やカ

ーフェリー、旅客ターミナルを対象に犯罪・テロ警戒を行っています。また、船舶運航者に対して見張りの徹底などの安全運航指導を行うとともに、乗船者の海中転落事故防止対策の指導も行っています。



海上保安庁音楽隊@東北 With 多賀城高校吹奏楽部



平成26年12月22日(月)、東日本大震災後初となる音楽隊の東北地方派遣演奏が、宮城県の七ヶ浜国際村ホールにおいて行われました。

ステージでは、第1部を海上保安庁音楽隊が、第2部を宮城県多賀城高等学校吹奏楽部の皆さんがそれぞれ演奏し、その後音楽隊も加わっての合同演奏をお楽しみいただきました。

演奏の他にも、地元出身隊員によるトークや業務紹介のほか、高校生の若さ溢れるダンスやパフォーマンスなどで会場は大いに盛り上がり、大盛況のうちに幕を閉じました。

地元高校生との交流を通して、地域の皆様へエールを送ることができました。



海氷情報センター開所



巡視船「そらち」が確認した流氷（平成27年1月11日）

平成26年12月22日（月）、第一管区海上保安本部では、オホーツク海など海氷が発生する海域を航行する船舶の海難を防止するため、「海氷情報センター」（所長：第一管区海上保安本部次長）を開所しました。

同センターでは、オホーツク海に面する各海上保安部、巡視船艇・航空機だけでなく、JAXA、気象庁、大学、一般通航船舶などの関係機関等

の協力を得て、一管区において24時間専従態勢で一元的に海氷情報を収集、解析し、インターネットなどで提供しています。

近年、海氷による海難で死者は出ていませんが、航行不能となった船舶事故は発生しています。今後も同センターでは海氷海難ゼロを目指して迅速な情報提供を行っていきます。



1月18日は「118番の日」です



プロ野球選手や地元アイドルを起用したポスター

海上保安庁では、海上における事件・事故の緊急通報用電話番号として、警察の110番や消防の119番のように覚えやすい局番なしの電話番号「118番」の運用を平成12年5月1日から開始しました。

平成22年には1月18日を「118番の日」と制定しており、今年は多くの方へ知ってもらうためにプロ野球選手や地元アイドルを起用したポスターを作成するなど様々な普及活動を全国各地で行いました。



下関と北九州に挟まれ日本海と瀬戸内海を結ぶ重要な航路である関門海峡は強い潮の流れと、S字カーブを描く複雑な狭水道で古くから航海の難所として知られてきた船同士の衝突や潮流による事故をいかにして防ぎ、減らしていくのか難しい課題に日々向き合う海上保安官の姿をレポートする

取材・文／中島 敦（オンサイト）



門司海上保安部／下関海上保安署

海峡の安全を守る

地形が生んだ海上交通の難所

山口県と福岡県に挟まれた関門海峡は、潮の流れが速く、鳴門海峡、来島海峡と並んで日本三大強潮流として知られている。特に早瀬瀬戸と呼ばれる関門橋付近は、幅約650mと狭く潮流の速さが10ノット（時速18km）を超えることもある海上交通の難所だ。

関門海峡を航行する船の数は、1日平均540隻にのぼる。この数字自体は際立って多いものではないが、S字状に屈曲した形状とその狭さから、航行が難しく事故が発生しやすい海域となっている。

第七管区海上保安本部門司海上保安部はその関門海峡を目前に望む門司区西海岸に庁舎を置き、10万トン級の大型貨物船から漁船、遊漁船などの小型船まで、日々交錯する船舶の安全確保に努めている。行き交う船に対しては関門海峡海上交通センター、通称関門マーチスがレーダーやAIS、船との無線通信など様々な情報を元に情報提供を行っているが、門司海上保安部はその関門マーチスと連携して実際に現場海域をしよう戒し、航路の安全確保に従事している。

門司海上保安部に所属する巡視艇「ともなみ」も、関門海峡のしよう戒が業務のひとつ。2月初旬のある日、10万トン級の大型貨物船の入出港に合わせて基地からしよう戒海域に向かった。

「今日は10万トン級の貨物船が3隻航行する予定です」と説明するのは「ともなみ」の田中嘉郎船長だ。「普段なら多くて2隻、それも時間は離れていることが多いので、



関門海峡海上交通センター、通称関門マーチス。多数の船が航行する航路・海域において、海上交通に関する航行情報の提供業務を行っており、現在全国7カ所に設けられている。



船橋側面に掲示される停船命令等表示装置で周囲の船に注意を促す。表示する文言は船内のパソコンでその場で変更・作成可能だ。



「非番の時でも汽笛が聞こえると大丈夫かなと心配になります」と語る「ともなみ」の田中嘉郎船長。



強潮流の難所、関門

「ともなみ」が見守る中、出港した大型貨物船（写真奥）とそれを追い越していく大型船（写真手前）。そして周辺を行き来する様々な船。狭い航路の中に多くの船が行き交っている。



表示例	表示の種類	表示の意味
	E 又は W	E: 東への流れ、W: 西への流れ
	0~13の数字	潮流の速力、単位はノット
	1 又は 2	1: 今後早くなる、2: 今後遅くなる

表示例の意味
「ただいまは東への流れで9ノット、潮流は今後早くなります。」

干珠島

関門海峡航行参考図





曲がりくねった関門海峡の中でも、もっとも幅が狭くなるのが関門橋が掛かる箇所だ。早瀬瀬戸と呼ばれ、強潮流の難所を多くの船が航行する。



濃霧に覆われた関門橋。視界500メートルを切り安全な航行ができない時には航路外待機指示が出されることも。



消防機能強化型巡視艇であり防災を主業務とする「ともなみ」。乗組員は空気ポンペを背負って火災の中に入って行くこともあり、日頃からの訓練が欠かせない。

今日のように重なって航行することは稀です」という。

基地を出た「ともなみ」は関門海峡を西へと向かう。戸畑泊地から出港する大型貨物船の航行に備え、付近の安全を確保するためだ。航路対岸で貨物船の出航を見守りながら付近の航行船舶の動きをチェックし、プレジャーボートや遊漁船が近付かないように警戒を続ける。この間、紅色の閃光灯を点灯し停船命令等表示装置（船橋側面の電光掲示板）で『大型船の出港があります』とメッセージを表示して周囲の船に注意を喚起する。遠方から見る貨物船の動きはゆったりとしたものだが、他の船が近付くとその大きさが際立つ。当然のことながら、俊敏に向きを変えたり減速することは不可能だ。

「小型船と大型船では眼高が異なるので危険を感じる距離感がまったく違うんです。小型船は大型船と衝突しない必要最低限の動作で避航しがちなんです。それが危険」と田中船長。「大型船の吸引作用や航走波の影響で衝突や転覆の危険性がありますし、何よりも大型船は小回りが利きませんから、たとえ小さな船が避けてくれると分かっても航路を塞がれていては航行できない。そこで停止しようものなら今度は自分の後方が渋滞してしまいますからね」

圧倒的な存在感を示しながら目前を通過していく大型貨物船を見守りながら、田中船長は説明した。無事に貨物船の出航を見送り基地に戻る途中、関門マーチスから「ともなみ」に無線が入った。付近を航行中の船に関門マーチスからの無線が届いていないようだという。「ともなみ」は該当船舶を確認すると接近してスピーカーで船に呼びかけ、マーチスの無線に応答するよう指示した。

狭い航路と好漁場が重なるゾーン

日本海側を航行して行く外国船にとつて関門海峡は西側の玄関口であり、神戸や大阪方面へと向かう船など航行船舶も多い。さらに前述のように関門橋付近では幅が狭まることで潮の流れが強まり、時には船が潮に押し戻されてしまうことも。このため早瀬瀬戸では港則法施行規則により、潮流をさかのぼって航行する際は、潮流の速度に4ノットを加えた速度以上の速さを保つことが義務付けられている。十分な速度を保つことができない船が航行すると後方の船との船間が詰まってしまい危険だからだ。またこの区間は追いつき禁止となる。

強い潮流の中での操船について田中船長は「潮に向かっているときは船首を押し流されて思った方向に進みにくくなりますし、潮の流れに乗っているときは舵が効きにくくなる。そういったことを理

立入検査に行く場合でも、その時々ですべて一から調べて準備します。他の方と比べて知識経験が不足していると感じています。それでも時には釣りしている方に「がんばってね！」と声を掛けられることもあり、意外とそういう言葉が力になったりします。下関の出身で、自分にとっては海＝関門海峡、その関門海峡で働きたいという気

ROOKIE'S VOICE

人間性を磨いて一人前の海上保安官に

「昨年9月に海上保安学校を卒業して、「ともなみ」の航海士補になりました。海という現場での仕事にはとてもやりがいを感じていますが、まだまだ先輩方のように、船長の指示に対して瞬時に状況や目的を理解できない事があり苦労しています。例えば先輩方が「あの船の動きが危ない」とすぐに指摘するような場合でも、自分ではどういう動きが危ないのかが理解できなかったり。また、



巡視艇「ともなみ」航海士補 竹田 悠人

持ちを持ち続けてきました。まだまだ分からないことはたくさんありますが、自分で責任を持って行動できる海上保安官になりたいと思っています。まずは2日後に迫った海技試験に向け勉強中です。また、海上保安学校では尊敬する教官にも会うことができました。私は成績はあまり良くなかった方ですが（笑）、その方をめざしてまずは人間性を磨いて、その上での海上保安官をめざします」



関門港テロ対応訓練。関門港危機管理を担うコアメンバー19機関による合同訓練で、昨年は人員約150名、船艇6隻、車両14台、ヘリコプター1機が参加した。

解していれば対処はできますが、やはり強い潮の流れの中での操船は難しいものがあります」と説明する。

また、航行を難しくする要素として、関門海峡が好漁場であることが挙げられる。漁船はもちろん、遊漁船やプレジャーボートなどが「ポイント」を求めて航路内にも集まってくるからだ。巡視艇が出向いて大型船が航行するから退避するよう指導しても大型船通過後すぐに同じ場所に戻ってくる。この繰り返しだという。大型船に接近することの危険性を訴え、



外国との直行定期便を持つ下関港。人と物の出入りは厳しくチェックされている。

航路に集まってくる遊漁船やプレジャーボートに乗る人々の意識を少しずつでも変えていくためには、粘り強い指導を重ねて行くしかないのが実情だ。

さらに関門海峡は霧が発生しやすく、時に船の航行に支障をきたすほどの濃霧になることがある。酷いときには100メートル先も見えない状態となるが、視界500メートルを切るときには、航路外待機指示が出され、航路航行禁止となる。霧は関門海峡全体を覆うわけではなく、部分的に、そして移動するので待機指示を解除するときには関門マーチスと連携しながら、通航船舶の整流を図っている。その他、地震対策では内閣府が発表している南海トラフ巨大地震データを基にし、沿岸地域住民と航行及び在泊船の安全確保等を目的とした部内マニュアルを整備している。また、平成25年には門司

ソーラス岸壁に停泊する「星希(ソニヒ)」（下関—釜山：写真左）と「ゆうとびあ」（下関—青島：写真右）。他に「はまゆう」と「ゆうとびあ4」、合計4隻の外航定期便が就航している。



及び、若松海上保安部並びに関門地域の関係者で構成する関門港自然災害対策委員会との間で南海トラフ巨大地震に伴う津波の襲来に対する避難、情報伝達等の初動措置に関する関係機関との合同指針の合意を形成しており、訓練を積み重ねているという。

求められるテロ、密輸・密航対策

前述のように関門海峡は地理的に西の玄関口であり、外国船の航行や入出港が多い。門司海上保安部長は港湾危機管理官（関門港担当）に任命されており、年に2回内閣官房で開催される水際危機管理チームの会合に参加して関係行政機関と連携強化に努め、関門港危機管理コアメンバー会合の開催や訓練等を実施し、テロ対策を強化して関門海峡における盤石な危機管理体制の確立に努めている。また昨年の関門港テロ対応訓練では、国際航路のフェリーにテロリストが乗船していたことを想定。入国手続き時に発見



下関海上保安署で警備救難係長を務める塘千秋氏。「人目の少ない山陰地区の警戒や、石油備蓄タンクなどもあるのでテロ対策は重要課題です」と語る。

して追跡から制圧までを、入国管理局、税関、警察、消防、海保が連携して実施した。

国際航路を持つ下関港

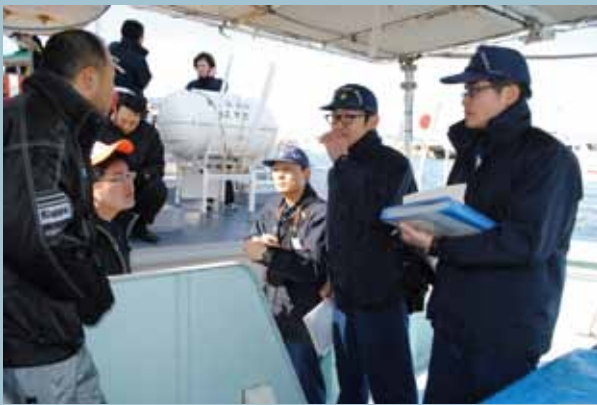
門司から関門橋を挟んで対岸、下関港では現在、中国と韓国に各2隻ずつ中国へ週2回、韓国へは毎日直行便が就航しており、頻繁に人と物が行き来している。福岡や長崎と並んで国際航路を持つ部署としてこの下関市指定水域の安全を日々見守っているのが下関海上保安署だ。入管ゲート正面に庁舎を置き海外との出入口を見守る塘千秋警備救難係長に話を伺った。

TOPICS

実践に即した捜査実務研修を実施

第七管区海上保安本部では、勤務5年以内の海上保安官を対象に、捜査実務研修を実施している。実際の取調べ捜査を想定したシミュレーション形式の訓練で、現場の状況に即応できる海上保安官の育成を図るものだ。

5日間にわたる研修は、捜査に対する姿勢や立入検査シミュレーション、写真撮影方法、テスト、講評といった流れで実施される。またこのシミュレーション実習で被疑者役を演じるのは第七管区海上保安本部所属の現役海上保安官。立入検査への要請に対して必ずしも協力的ではない態度で、時として「一筋縄にはいかない」取調べの現場を再現していた。



巡視艇「はたかぜ」航海士補 安永 将大(27歳)

「これまでの日々の業務の中で立入検査は行っていましたが、普通はだいたい、皆さん素直に応じてくれとても協力的です。研修の被疑者役は、とても非協力的で、相手が非協力的になると立入検査は非常に難しくなると痛感しました。研修初日に班組が決まり、メンバー同士で役割を確認したり、どういった違反があるかを予習したのですが、やはり実際に相手と対峙するとうまく行かない部分もありました。相手から強く言い寄られてこちらが黙ってしまうこともあったのですが、模擬の後の講評で毅然とした態度で臨むこと、そして疑問に思ったことや矛盾点はどんどん追及するように指摘されました。自分の勉強にもなりますので、いつかは被疑者の役も演じてみたいと思いました」



「やはり外国からの入国者が多いだけに、テロ警戒業務は重要な任務です。入国管理局や税関が連携し、入管はテロ対策を含んで犯罪歴のある人間の審査を行い、税関ではモノの流れをチェックしています。

税関・入管と合同で船の立入検査などを実施していますが、通常に出入りする人に関しては入管がしっかりと審査しているので、我々はそれ以外、例えば貨物船に潜んで入国しようとする人物や不審物などを警戒しています。船内に隠れていて夜間にこっそりと、というようなケースもありますからね。もちろんフェンスもありませんし港湾局やガードマンの方々ががっちり固めています。よりチェック機能を強化するよう指導しています」

また中国と韓国を結ぶフェリーの事故を未然に防ぐために下関海上保安署では定期運航しているフェリーに対して安全総点検も実施している。

他方、山陰地区は韓国から近いこともあり密輸・密航対策が重要となるため、夜間にもしよう戒したり、漁協とも連携して水際の対策に力を入れている。同様に人が入り込む可能性があればテロに対する対策も行っている。特にこの地域には石油備蓄タンクなどターゲットにされやすい設備もあるので警戒は欠かせない。

関門航路という交通の難所での船舶航行安全の確保、西の玄関口としての密輸・密航対策とテロ対策。門司海上保安部と下関海上保安署は日夜、全方位で海の安全と安心に取り組んでいる。



門司港・下関 エトセトラ

特集では伝えきれなかった門司港・下関をここで

関門海峡



下関市と北九州市の間を通る関門海峡。多くの船舶が往来し、海上交通の要衝となっている。また、航路が狭く屈曲しており強潮流のため航海の難所としても知られている。そのため海上保安庁では船舶が安全に航行できるように常に警戒を行っている。

強潮流

日本にはいくつかの狭水道が存在し、ここ関門海峡は来島海峡、鳴門海峡と並ぶ三大強潮流のひとつとなっている。最強流時には約10ノットを超えることもある。

狭視界

強潮流、狭い航路幅、多数の航行船舶。このように操船者にとって決して良い環境とはいえない関門海峡だが、さらに悪い条件が揃うことがある。それが狭視界だ。

関門海峡付近に霧がかかると目視だけでの航行は困難を極める。100メートル先の船も見えなくなってしまうことも。

このようなとき、関門港長（門司海上保安部長）は「航路外待機指示」を出し、航路を航行する船舶を航路外に退避させる。こうして安全を確保するのだ。



関門海峡に霧がかかった様子



関門トンネル人道

関門海峡の下を通る海底トンネルで、車道下には人や自転車も通ることができる人道が整備されている。

トンネル中間地点には福岡県と山口県の県境も存在し、このトンネル内でのみ確認することができるとして、観光スポットのひとつとなっている。

巖流島



関門航路を航行していると見えてくる無人島、巖流島。
この島は1612年に佐々木小次郎と宮本武蔵が決闘を行った島として知られている。
下関の観光スポットともなっているこの島には、多くの観光客が訪れ、ツアーが組まれるほどの人気ぶり。
実は島の正式名称は舟島^{ふなしま}というが、決闘の敗者である巖流佐々木小次郎の名が残り、いまでは一般的に巖流島と呼ばれており、海図にもその名が記載されている。

門司港レトロ

初めて門司港の駅に降り立つと、趣のある駅舎に驚く方もいるのではないだろうか。
駅内部には、1929年に門司港繁栄時期に新設された旧洗面所も保存されており、当時のレトロ感を味わうことができる。
また、門司港駅のみならず、駅周辺には歴史ある建物を利用した施設が多く存在し、歴史情緒を感じることができる。



旧門司三井倶楽部



旧洗面所

門司港の名物

焼きカレー

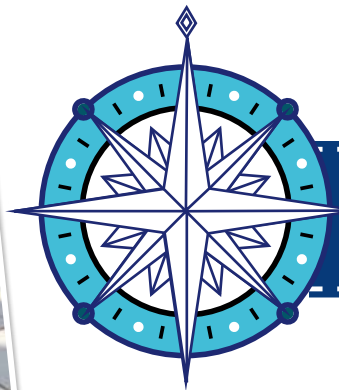
門司港の名物として、もうひとつ挙げられるのが「焼きカレー」ではないだろうか。
明治から昭和にかけて貿易の拠点として栄えた門司港は、西洋と東洋の良さが混在し、多くのハイカラメニューが誕生したという。
このようなメニューのひとつとして誕生した「焼きカレー」は、現在も多くの人に親しまれている。



バナナの叩き売り

言わずと知れた門司港の名物、バナナの叩き売り。
バナナの叩き売りの碑というものも存在し、門司港駅付近にある旅館の入り口横に立てられている。
大正時代に初めて行われた叩き売りだが、門司港を訪れば当時の雰囲気味わえるかも知れない。





NEWS FLASH



ペンギン船長が118番をPR
(1月18日 下田海上保安部)

▶ 三管区



プロ野球選手と118番周知活動
(1月18日 千葉海上保安部)

▶ 三管区



ご当地アイドルとともに「118番」PR!
(1月15、18日 第四管区海上保安本部)

▶ 四管区



ご当地キャラクターと一緒に118番をPR
(1月18日 第九管区海上保安本部、金沢海上保安部)

▶ 九管区

▶ 一管区

**118番アイス
キャンドル点灯!**
(1月18日 紋別海上保安部)



▶ 十一管区

**プロバスケの
ハーフタイムに
118番を周知**
(1月18日 第十一管区海上保安本部)



**巡視船「さつま」「こしき」による
訓練はじめ**
(1月13日 鹿児島海上保安部)

▶ 十管区



**巡視船「えちぜん」
今年初の潜水訓練**
(1月6日 敦賀海上保安部、巡視船えちぜん)

▶ 八管区



海水の中で訓練はじめ
(1月5日 釧路海上保安部)

▶ 一管区



◀ 五管区

**有害液体物質事故
初動対応訓練**

(11月26日～28日 第五管区海上保安本部)



▲ 七管区

巡視艇の体験航海に海洋少年団が参加

(12月7日 大分海上保安部、巡視艇「ゆふぎり」)



▲ 十管区

**「三角西港」で環境図画コンクール
展示会及び表彰式**

(12月20日 熊本海上保安部)



▲ 三管区

中学生が巡視艇で職場体験

(1月15、16日 川崎海上保安署)



▲ 二管区

消防機関と合同潜水訓練

(12月29日 宮城海上保安部、巡視船「くりこま」)



▲ 学校

海上保安学校学生が「舞鶴市成人式」に参加

(1月11日 海上保安学校)

▼ 大学校

毎年恒例の耐寒訓練はじまる

(1月19日～28日 海上保安大学校)



INFORMATION

大切な命！自分で守る

～海上保安庁からのお願い～

マリナーを安全に楽しむために、事前に海の気象情報・安全情報を収集し、
もしもに備えて、自己救命策確保3つの基本を守りましょう！

自己救命策確保3つの基本



1 海に落ちても沈まない
ライフジャケットの着用



2 水中でも大丈夫(防水バツクの使用)
携帯電話の携行



3 海のもしもは……
118番の活用

海上保安大学校・海上保安学校採用試験

海上保安庁では、当庁の職員の養成機関である海上保安大学校及び海上保安学校の学生を募集しています。試験は、高等学校等卒業者を対象に行われます。試験の日程については、下記のとおりです。詳しくは、最寄りの海上保安本部または海上保安庁総務部教育訓練管理官付学校教育係（Tel：03-3580-0936）までお気軽にお問い合わせください。



平成27年度 採用試験日程



海上保安学校 学生採用試験〔特別〕

受付期間	インターネット	平成27年4月1日～4月8日
	郵送・持参	平成27年4月1日～4月3日
第1次試験	平成27年5月17日	

海上保安学校 学生採用試験

受付期間	インターネット	平成27年7月21日～7月30日
	郵送・持参	平成27年7月21日～7月23日
第1次試験	平成27年9月27日	
ホームページ	http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/	



海上保安大学校 学生採用試験

受付期間	インターネット	平成27年8月27日～9月7日
	郵送・持参	平成27年8月27日～8月31日
第1次試験	平成27年10月31日、11月1日	
ホームページ	http://www.jcga.ac.jp/	

学生採用試験ホームページ

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/siken.html>

